

第5回 県有施設・県出資団体等調査特別委員会資料

公の施設等について ～個別施設の現状と課題、その対応方針～

つくば国際会議場（政策企画部）

令和5年12月21日（木）

○施設名 つくば国際会議場

1 現状

(1) 施設の概要

- つくば国際会議場は、科学技術都市つくばの研究開発機能及び国際機能の強化並びに会議参加者等の集客効果による地域経済の活性化を目的に、平成11年に科学技術振興事業団（現：国立研究法人科学技術振興機構）と共同で設置した。
- 最大1,258名収容の大ホールをはじめ、2つの中ホールや大小18の会議室、多目的ホール、特別会議室、屋上庭園などを備え、本格的な国際会議や学会、展示会など幅広い用途に対応可能な施設となっている。
- コロナ禍前（令和元年度）の国際会議開催件数は、全国の会議場で5位に位置するなど、研究学園都市における研究交流に大きく貢献している。（日本政府観光局2019年国際会議統計）

| | |
|------|--|
| 所在地 | つくば市竹園2丁目20番3号 |
| 開業年月 | 平成11年6月 |
| 施設概要 | 敷地面積 16,666.70 m ² 、延床面積 23,053.86 m ² 鉄骨鉄筋コンクリート造 地上4階建て |
| 設置理由 | 科学技術都市つくばの研究開発機能及び国際機能の強化並びに会議参加者等の集客効果による地域経済の活性化を目的として設置 |
| 主な施設 | 大ホール（1,258席）、中ホール200（200席）、中ホール300（スクール型で230席）、多目的ホール（スクール型で324席）、特別会議室（22席）、大／中／小会議室（分割使用により最大18室、スクール型で12～306席） 北駐車場28台、南駐車場46台 |
| 利用料金 | つくば国際会議場の設置及び管理に関する条例により設定 （施設利用料、付属設備利用料、駐車場利用料） |

- 令和4年度から、関彰商事株式会社とネーミングライツ契約を締結し、大ホールの名称を「Leo Esaki メインホール」としている。（令和4年度～令和6年度）
- 茨城県地域防災計画（原子力災害対策計画編）では、県庁舎が立ち退きの指示を受けた区域に含まれるなどにより使用できない場合には、県災害対策本部の移転先をつくば国際会議場としている。また、同計画（地震災害対策計画編）においても、防災センターの代替施設のひとつとして位置付けられている。

(2) 管理手法

- 平成 11 年の設置当初から施設運営を委託しており、平成 18 年度からは指定管理者制度を導入している。

| | |
|--------|--------------------------------------|
| 指定管理者 | つくばコンgresセンター |
| 指定管理期間 | 令和 3 年 4 月 1 日～令和 8 年 3 月 31 日（5 年間） |
| 従事者数 | 51 人（常勤 44 人、非常勤 7 人） |

(※) つくばコンgresセンター（7 者による共同企業体方式）

代表団体 （一財）茨城県科学技術振興財団

構成団体 （株）JTB：催事誘致、（株）クレフ：AV 設備運用管理、（株）東京警備保障：警備業務、高橋興業（株）：設備運転業務、テスコ（株）：清掃業務、（株）つくばエッサ：会場設営業務

(3) 利用状況

- 利用者数は令和元年度まで 20 万人超で推移していたが、新型コロナウイルス感染症の流行拡大に伴う休館や利用制限、会議等の開催自粛などの影響を受け、令和 2 年度から 3 年度は大きく減少している。
- 令和 4 年度は感染症の収束に伴い、コロナ禍前（令和元年度）の 8 割近く（15.3 万人）まで回復している。
- 利用者の傾向として、主催者別には企業や各種団体、行政、大学などの利用が多く、また、催事別には会議や研修会、講演会・講習会、学術系の会合などが多くなっている。

【利用者数の推移】

(単位：人)

| 年度 | H26 | H27 | H28 | H29 (ピーク) | H30 | R 1 | R 2 (コロナ禍) | R 3 (コロナ禍) | R 4 (コロナ禍) | R 4 /ピーク |
|------|---------|---------|---------|--------------|---------|---------|---------------|---------------|---------------|----------|
| 利用者数 | 211,030 | 218,186 | 212,047 | 224,787 | 211,545 | 200,027 | 69,709 | 77,987 | 153,357 | 68.2% |

(4) 経営状況

○ 令和2年度から3年度は、コロナ禍の影響により利用者数が大幅に減少している。人件費の抑制や消耗品・光熱費削減などコスト縮減を図ったものの、令和3年度は赤字を計上した。

※赤字分は令和4年度に茨城県新型コロナウイルス感染症対策県有管理業務施設支援金により補填

○ こうした厳しい状況下においても、オンライン併用によるハイブリッド会議や各種資格試験など、新たなニーズを捉えるための設備強化や営業活動を展開した結果、令和4年度は利用料収入及び利用者数がコロナ禍前（令和元年度）の約8割まで回復しており、令和5年度も前年度を上回る状況が続いている。

【収支の推移】

(単位：千円)

| 年度 | 歳入計 (A) | | 歳出計 (B) | | | 収支 (A-B) | |
|-----|---------|---------|---------|---------|---------|-------------|---------|
| | | うち指定管理料 | うち利用料収入 | うち人件費 | うち維持管理費 | | |
| H26 | 547,988 | 70,438 | 384,567 | 547,988 | 67,484 | 447,833 | 0 |
| H27 | 518,704 | 68,439 | 366,942 | 518,704 | 74,590 | 411,107 | 0 |
| H28 | 508,660 | 76,408 | 357,992 | 508,660 | 69,846 | 399,825 | 0 |
| H29 | 523,336 | 77,098 | 361,461 | 523,336 | 74,337 | 412,008 | 0 |
| H30 | 545,048 | 77,098 | 380,278 | 545,048 | 74,295 | 426,739 | 0 |
| R 1 | 546,325 | 80,238 | 379,762 | 546,325 | 78,987 | 427,963 | 0 |
| R 2 | 323,448 | 80,738 | 140,117 | 323,448 | 70,104 | 229,117 | 0 |
| R 3 | 306,447 | 80,738 | 205,870 | 343,270 | 70,136 | 247,603 | △36,823 |
| R 4 | 477,200 | 80,738 | 318,226 | 440,378 | 67,267 | 345,480 | 36,822 |
| 平均 | 477,461 | 76,881 | 321,691 | 477,462 | 71,894 | 371,964 | — |

【大規模修繕の推移】（10,000千円以上の修繕を記載）

- 開館から24年が経過し、施設の老朽化や設備の経年劣化に伴い、近年の修繕費用は増加傾向にある。
- 施設の維持を効率的かつ計画的に行っていくため、長期保全計画を令和4年1月に策定している。
- 今後、更なる修繕費の増加が見込まれるが、限られた予算で競争力のある施設としていくため、長期保全計画を基本に、建物の維持管理や利用者の利便性向上につながる修繕や更新など、指定管理者と協議検討しつつ、県負担の軽減や費用の平準化も考慮しながら計画的に修繕を進めていく。

（単位：千円）

| 年度 | 修繕実績額 | 修繕内容 |
|-----|---------|---|
| H26 | 40,824 | 空調調和器オーバーホール、冷却塔オーバーホール |
| H27 | 25,812 | 空調調和器オーバーホール、エスカレーター修繕 |
| H28 | 51,844 | 空調機更新、大ホール同時通訳設備更新 |
| H29 | 56,160 | 空調用自動制御装置更新、映像音響設備更新（大ホール・中ホール200・300） |
| H30 | 133,920 | 火災報知設備等更新、同時通訳設備等更新（中ホール200・300）、ホールプロジェクター更新、駐車場管制機器更新 |
| R1 | 28,924 | エスカレーター修繕、大ホール音響設備更新 |
| R2 | 28,358 | 空調機フィルター等更新、中ホール300音響設備更新 |
| R3 | 96,778 | 中ホール200音響設備更新、照明制御機器更新、大ホール映像設備デジタル化 |
| R4 | 54,780 | 中ホール300映像設備デジタル化 |
| 計 | 517,400 | |

（5）周辺エリアの動向、他県の類似施設の状況

- 筑波研究学園都市は国や民間の研究機関、大学などが集積する我が国最大のサイエンスシティであり、現在、29の国等の研究・教育機関を始め多くの民間研究所等が立地し、官民あわせて約2万人が市内の研究機関に勤務している。
- つくばエクスプレスの開通や圏央道の整備により、開館当初と比較すると首都圏や成田空港からの交通利便性が大きく向上している。
- Gメッセ群馬（高崎市）やライトキューブ宇都宮（宇都宮市）など近県で類似施設の新規開業が相次いでいるが、つくばの強みを活かし、新たなニーズを捉えた戦略的な営業活動により差別化を図っていく。

2 課題

- 開館から24年が経過し、施設の老朽化や設備の経年劣化が生じており、今後、特定天井、屋上防水、空調機器、電気設備など、大規模修繕を計画的に行えるよう、財源確保や負担の平準化を検討する必要がある。
- 令和4年度以降、利用者数や会議件数は回復傾向にあるが、依然としてコロナ禍以前の水準までに回復できていない。
- エネルギー価格高騰に伴う光熱水費の更なる負担増が懸念されるが、維持管理費の大幅な削減が難しい。

3 対応方針

| 現所有者 | 今後、想定される所有者 | 今後の取組方針（案） | 該当の有無 |
|------|-------------|---------------------------------|-------|
| 県 | 県 | 現行の管理手法での施設運営の合理化など | ○ |
| | | 民間活力の導入による運営改善（施設リニューアル、P-PFI等） | |
| | 市町村 | 譲渡・譲与 | |
| | 民間 | 譲渡 | |
| | — | 廃止・休止 | |

【方針】

- 現行の指定管理者制度による管理運営を継続し、更なる利用促進を図るとともに、適正かつ効率的に維持管理を行う。

【理由】

- 当施設は、つくばにおける研究機関や大学等の集積を最大限に活用し、研究学園都市における交流の場やサイエンスシティつくばを世界に発信する中核施設として活用されており、条例で定められている目的を踏まえ、引き続き、学術研究交流や国際交流、県内科学技術振興などの拠点としての役割が期待されている。
- 民間事業者のノウハウを活かして、サービスの質の向上や営業活動の展開、経費節減などを図るため指定管理者制度を導入しているところであり、引き続き、指定管理者による施設運営を継続する。
- また、これまで以上に効率性や収益性を考慮した会議場運営を目指すとともに、開館以来消費税増税時以外では改定されていない施設利用料を見直すことや、館内スペースを利用した有料広告・有料設備の導入などについて検討するなど、新たな取組による収入の増加を図る。
- 今後、更なる修繕費の増加が見込まれるが、長期保全計画を基本に、建物の維持管理や利便性向上、耐用年数や劣化の状況など修繕の必要性を指定管理者と協議しながら、県負担の軽減や平準化も考慮して計画的に修繕を進めていく。

公の施設等に係る運営評価等調書

| | | | |
|-----|----------|-----|------------|
| 施設名 | つくば国際会議場 | 所管課 | 政策企画部地域振興課 |
|-----|----------|-----|------------|

1 施設概要

| | | | |
|----------|--|------|---------|
| 所在地 | つくば市竹園2丁目20番3号 | 整備年月 | 平成11年6月 |
| 設置の根拠法令等 | つくば国際会議場の設置及び管理に関する条例 | | |
| 設置目的 | 学術研究交流、国際交流その他の交流の推進により、本県の学術及び文化の向上に資する | | |
| 事業内容 | <ul style="list-style-type: none"> ・会議場の施設、附属設備及び駐車場の利用承認に関する業務 ・会議場の利用の促進に関する業務 ・会議場の維持管理に関する業務 ・施設等の利用の承認の取り消し等に関する業務 ・会議場の開館日及び開館時間の臨時の変更に関する業務 ・その他、会議場の管理上必要と認める業務 | | |
| 施設内容 | <ul style="list-style-type: none"> ・敷地面積：16,666.7㎡ ・建築面積：9,134.29㎡ ・延床面積：23,053.86㎡ ・構造：鉄骨鉄筋コンクリート造 地上4階建て ・主な会議室の状況： 大ホール（1,258席）、中ホール200（200席）・中ホール300（スクール型で230席）、多目的ホール（スクール型で324席）、特別会議室（22席） 大／中／小会議室（分割使用により最大18室、スクール型で12～306席） 北駐車場28台、南駐車場46台 | | |

2 管理者

(令和5年7月1日現在)

| | | | |
|------|-------|----------|---|
| 管理区分 | 指定管理 | 管理者名 | つくばコンgresセンター (代表団体：(一財)茨城県科学技術振興財団) |
| 体制 | 51人内訳 | 常勤職員：44人 | 非常勤：7人 |

3 利用状況

| | | H30年度 | R1年度 | R2年度 | R3年度 | R4年度 |
|---------|-----|---------|---------|--------|--------|---------|
| 利用者数(人) | 目標値 | - | - | - | - | - |
| | 実績 | 211,545 | 200,027 | 69,709 | 77,987 | 153,357 |

4 施設運営に係る事業費

(千円)

| | | H30年度 | R1年度 | R2年度 | R3年度 | R4年度 |
|---------|-------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 収入 | 指定管理料 | 77,098 | 80,238 | 80,738 | 80,738 | 80,738 |
| | 使用料収入 | 380,278 | 379,763 | 140,117 | 205,871 | 318,226 |
| | その他 | 87,672 | 86,324 | 102,593 | 19,838 | 78,236 |
| | 合計① | 545,048 | 546,325 | 323,448 | 306,447 | 477,200 |
| 支出 | 人件費 | 74,295 | 78,987 | 70,104 | 70,136 | 67,267 |
| | 管理運営費 | 426,739 | 427,963 | 229,117 | 247,603 | 345,480 |
| | その他 | 44,014 | 39,375 | 24,227 | 25,531 | 27,631 |
| | 合計② | 545,048 | 546,325 | 323,448 | 343,270 | 440,378 |
| 収支(①-②) | | 0 | 0 | 0 | △36,823 | 36,822 |

(千円)

| | | H30年度 | R1年度 | R2年度 | R3年度 | R4年度 |
|--------|--|---------|--------|--------|--------|--------|
| 大規模修繕費 | | 133,920 | 28,924 | 28,358 | 96,778 | 54,780 |

※10,000千円以上の修繕費

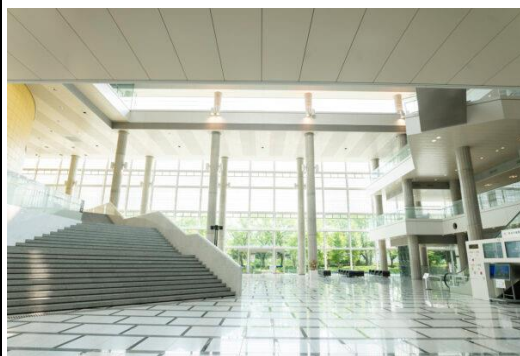
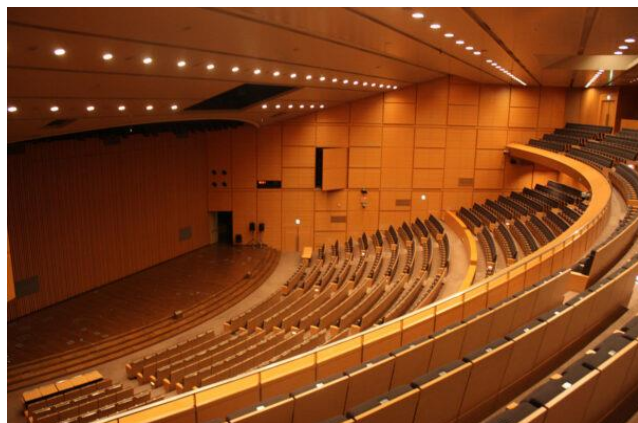
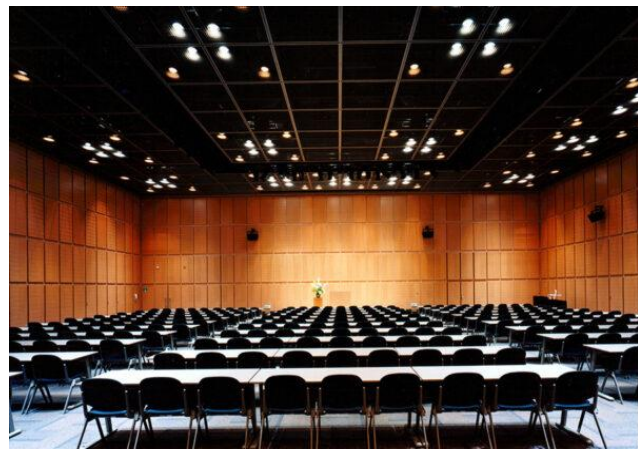
5 運営上の課題と対応

| 課題 | 対応 |
|--|---|
| ○施設の老朽化や設備の経年劣化（耐用年数超過）が生じており、今後想定される大規模修繕への対応が必要。 | ○長期保全計画を基本に、修繕の必要性を指定管理者と協議しながら、計画的に修繕を進めていく。 |
| ○利用者数や会議件数は回復傾向にあるが、以前としてコロナ禍以前の水準までは戻っていない。 | ○これまでのネットワークを十分に活用しながら、国際会議・学術系会議の誘致に取り組んでいく。また、コロナ禍で新たに獲得した会議等の継続利用を図っていく。 |
| ○光熱水費の更なる負担増が懸念されるが、施設の特長上、維持管理費の大幅な削減が難しい。 | ○光熱水費や印刷費など引き続き経費削減に努めるほか、より一層効率性の高い管理運営に取り組む。 |

1 施設の位置図



2 施設の写真



3 施設の配置図（平面図）

○配置図



○館内図

